YU-INFORMATION
No.117
山口大学広報誌

2014

特集

豊かな命を担う

「柑味鮎の出来るまで」（農学部）

「国際水準の共同獣医学部教育」（共同獣医学部）

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

YU-INFORMATION
No.117
山口大学広報誌

I
2014

cover story

［今月の表紙］

山口大学の北東側に隣接して、総面積およそ32haの広大な農場があります。山口大学の研究施設の一つで昭和41年の農学部移転当初から存在しています。農学部生の農場実習、共同獣医学部生の畜産学実習、教育学部生には学生実習の場になっています。この十数年、世界を揺るがしているBSE、鳥インフルエンザ、食品汚染などの問題は、この星に存在する「豊かな命」を脅かしています。グローバルな視点から眺める「豊かな命」は決して大袈裟な事ではなく、彼女の目の前にいるこの「命」を守る事で支えられているのです。

contents

03

今月の特集｜#1｜農学部

柑味鮎が出来るまで

山口大学農学部　生物機能科学科　赤壁 善彦 教授

05

今月の特集｜#2｜共同獣医学部

国際水準の共同獣医学部教育

山口大学共同獣医学部 学部長
獣医衛生学分野　岩田 祐之 教授

07　地域貢献への取組み おもしろプロジェクト

09　What's New? YU-PRSS

10　EVENT SCHEDULE Next Issue

文責：株式会社 無限

特集 #1 農学部
Faculty of Agriculture

【 今月の特集 】

豊かな命を担う

Taking responsibility for all life

山口大学憲章の「私たちの責務」には次の3つの項目があります。
「新たな価値の創出」、「社会が抱える問題解決への寄与」、「地域社会の発展と国際社会への貢献」。
この責務を果たし「豊かな命を担う」ための取組みとして、地域の問題に新たな価値を示した「柑味鮎の開発」と、
国際社会への貢献を目指す「共同獣医学部教育」について紹介します。

特集 #2 共同獣医学部
Joint Faculty of Veterinary Medicine

柑味鮎が出来るまで

香りの研究を専門とする赤壁教授に
全国的にも珍しい、柑橘の風味がする
アユの開発秘話を語っていただきました。

爽やかな柑橘の香りがする「柑味鮎」

柑味鮎（かんみあゆ）とは？

「柑味鮎」は、赤壁教授と椹野川漁業協同組合が共同開発して生まれた、さわやかな柑橘の香りがする鮎。ミカンから抽出した成分を混ぜた餌を食べさせて育てたその身は、ほんのりと柑橘の香りがしてさっぱりしており内臓もまったく苦味がなく、川魚が苦手な方にも好評。平成24年度から本格的に販売を開始した、今注目の「フルーツ魚」。

養殖および天然アユの河川による香りの違いを分析

アユは、香魚やキュウリ魚、スイカ魚とも呼ばれ、体の表面から発する独特の香りがあります。これにはエサが関係しています。アユが生息する河川が違えば、コケなどのエサも違うことから、アユ自体の香りも異なります。このことを明らかにするために、2010年、椹野川漁業協同組合の協力を得て、県内の養殖および天然アユを集め、河川の違いによるアユの香りの分析を行いました。

その際、漁協の方との雑談中に、アユの生臭いイメージを解消し、消費者の川魚離れを食い止めたいという要望をお聞きしました。実際、アユの生産量は10年前の約1万9千トンに対して、現在は8千トン弱と大幅に減少しています。一方で、養殖アユの占める割合は年々高くなっています。ここに、解決の糸口になるヒントが隠されているのではないかと感じました。

Profile

山口大学農学部
生物機能科学科　教授

赤壁　善彦
Yoshihiko Akakabe

1994年 岡山理科大学大学院理学研究科博士課程修了後、東京大学大学院農学生命科学研究科を経て、1995年 山口大学農学部助手、2005年 同助教授、2007年 准教授を務め、現在に至る。
専門分野：有機化学、天然物有機化学、生物有機化学、香料化学
著書：『人を幸せにする目からウロコ！研究』

県オリジナル柑橘品種の香り成分を研究

萩の夏みかんに代表されるように、山口県は古くから柑橘の生産地として全国的にも知られており、「せとみ」や「ゆめほっぺ」などのオリジナル品種も多く生産されています。柑橘の香りは品種によって異なり、その味にも大きな影響を及ぼします。

以前、本学農学部では、柑橘の香りの研究が行われていましたが、研究者であった教員が転任後、引き継ぐ者がなく、研究が途絶えていました。しかし、大学として基礎的な研究は継続すべきであろうと考え、35年ぶりに柑橘の香りの研究を復活させました。

そこで2005年、山口県農林総合技術センターなどの協力を得て、オリジナル柑橘品種の香りの分析を行い、他品種との違いを明らかにしました。その中で、ジュース加工の際、果皮残さは産業廃棄物としてすべて廃棄されていることを知りました。実は、柑橘の果皮の部分には、香り成分だけでなく、機能性成分も豊富に含まれています。それを廃棄するのはもったいない、何かに有効活用できないものかと感じていました。

ところで、我々日本人は、焼き魚を食べるとき、よくレモンやスダチなどの柑橘を絞りますよね。これには、生臭さを消して、魚のおいしさを引き立たせるだけでなく、柑橘のさわやかな香りで食欲をそそるという効果もあります。ということは、焼いたアユに柑橘を絞るのではなく、アユ自体に柑橘を食べさせれば良いのでは、という単純な発想から、今回の研究がスタートしました。

柑橘鮎の開発成功とブランド化に向けた取り組み

まず手始めに、2011年度は、柑橘の果皮を混ぜ込んだ飼料で、アユの試験養殖に着手しました。エサの配合や量などの試行錯誤を繰り返した結果、背ゴシで食べても生臭さが少なく、まるでポン酢を絞ったかのような非常に柑橘の香りがするアユの養殖に成功しました。

同年、ホテルや旅館などの料理人、および飲食関係者を招いて試食会を開きました。通常の養殖アユと食べ比べてもらったところ、「臭みがない」「柑橘の香りがしておいしい」などと、高い評価をいただき、確かな手応えを感じました。そこで、5店舗限定でこのアユを提供したところ、テレビや新聞などに取り上げられ、多くの問合せを受けました。非常に反響が高かったため、開発したアユを柑橘の風味のする鮎という意味で「柑味鮎」と命名し、商標登録を行いました。

2012年度には、成魚2万尾、稚アユ1万尾、2013年度には、成魚5万尾、稚アユ2万尾を計画し、本格的な生産をスタートさせました。

2012年には、山口市内でお披露目会も開き、柑味鮎をさまざまな調理法で提供しました。同年より、愛好家だけでなく一般の方にも広くアユや柑味鮎を知っていただく目的で、6月の第1日曜日を「あゆの日」と定め、椹野川で「あゆの日まつり」を開催することにしました。私の研究室の学生たちも、地域連携活動の一環として、ボランティアで運営に携わっています。

研究室の学生たちと「あゆの日まつり」にて

さらに、全国展開を目指して、東京で柑味鮎のお披露目を行い、ブランド化の宣伝も行いました。「食と地域のブランド形成事業」にも採択され、山口市にバックアップしていただくことになりました。そのほか、地元企業の協力を得て、柑味鮎の塩焼きや稚アユの唐揚げといった加工品の販売も開始しました。現在、新山口駅や錦帯橋空港、デパートやスーパーなどで購入できます。

アユは低脂肪で高タンパク、しかも柑味鮎は柑橘の風味が食欲をそそるため、夏バテ防止に最適な食材としてアピールできないかと考えています。また、京都の夏の風物詩である川床料理がここ山口でも提供できないかと考え、関係機関にご提案しています。

現在、若者を中心とした消費者の魚離れが進む一方で、みかんブリ、かぼすヒラメなどのフルーツ魚が話題となっています。その中の一つとして、唯一、川魚である柑味鮎が取り上げられたのは、非常にうれしいですね。ほかの魚と比べても、柑橘の香りがここまでハッキリ感じられるものはないものと自負しています。

今回の成功は、漁協や企業、市や県の協力があったからこそ。さまざまな要因がうまく結びついた結果、全国へ向けて誇れる商品を脅威のスピードで誕生させることができました。

地元企業はいろいろな問題を抱えています。そこに、研究開発のヒントがあると思っています。商品化するためには基礎研究による裏づけが必要になってきます。そのことを企業や一般の方に知っていただく上でも、今回の成功には大きな意味があったと思います。今後も、地元や企業からの要望に応じて、香りに注目したブランド開発に積極的に関わり、地域産業の活性化を応援していきたいと思っています。

Comment
共同開発企業のコメント

椹野川漁業協同組合
業務部 部長
田中 実 氏

アユ全体の消費拡大につながる起爆剤として期待しています！

赤壁教授からお話をいただいたとき、柑橘には抗菌作用があるため、香りの効果だけでなく、アユ自体も丈夫なものが生育できるのではないかという好印象を持ちました。でも、こんなに劇的に柑橘の香りがするとは思っていなかったので、初めて口にしたときはとても驚きました。これまでのアユと思って食べると、アユではない。柑橘の香りがハッキリ感じられるので面白いと思いました。逆に、味があいまいだと、消費者にアピールしづらく、中途半端に終わってしまう恐れがあります。天然、養殖、そしてこの柑味鮎を第3の鮎として位置づけすることで、それぞれの良さを引き立て、アユを食べたことがない消費者にも興味をもっていただくきっかけになるのではないかと考えました。

共同開発の最大のメリットは、山口大学のお墨付きをいただいたことですね。科学的に裏づけされた、インパクトのある商品ができたので、消費者にも自信をもっておすすめできます。柑味鮎が有名になったおかげで、アユといえば椹野川という知名度も上がってきました。大量生産ができないので、県内はもちろん他県の方にも、ぜひ山口に足を運んで味わっていただきたいですね。消費者の皆さんには、柑味鮎をきっかけとして、ほかの川魚にも親しんでもらいたいと思います。今後も、さまざまな人を巻き込んで、アユの生産や加工品づくりに取り組んでいきたいと考えています。おすすめの食べ方は、柑味鮎の塩焼きとダシで炊いた鮎ごはんです。骨も柑橘の香りがするので、ぜひお試しください！

田中氏のオススメ、柑味鮎の塩焼きと鮎ごはん

”人と動物の未来を結ぶ獣医師養成を目指して“

国際水準の共同獣医学部教育

Profile

山口大学共同獣医学部 学部長
獣医衛生学分野 教授

岩田 祐之 Hiroyuki Iwata

1981年 東京大学農学部畜産獣医学科卒業
農学博士, 農学修士(東京大学)
山口大学農学部助教授、同教授を経て、
現在、同大学共同獣医学部 教授 学部長
専門分野:応用獣医学、獣医衛生学

獣医学教育・研究の拠点となる国内初の共同学部として誕生した共同獣医学部。2年目を迎えた本学部の教育内容や目指す方向について、学部長の岩田教授に語っていただきました。

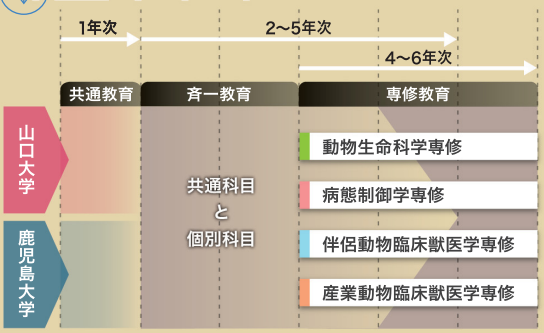
獣医師を取り巻く国内外の多様なニーズ

共同獣医学部とは、山口大学と鹿児島大学がもつ教育研究資源や人材を共用し、それぞれが強みとする分野の獣医学教育を両大学の学生に等しく提供する共同教育課程の学部です。「国際水準の獣医学教育のための相互補完による共同教育体制」と「社会ニーズへ機動的に対応できる獣医学教育と研究」の実現を目指し、全国初の共同学部として、平成24年4月に設置されました。本学部設置の背景には、獣医学を取り巻く国内外における環境の変化が大きく影響しています。

国外においては、各国の脅威となっている人獣共通感染症のコントロール、環境問題の深刻化による食糧供給や食の安全性の確保などに獣医師の活躍が期待されると同時に、獣医学教育の高度化と専門化が大きく進んでいます。欧米では、獣医学教育の質を確保するために、AVMA(アメリカ獣医師会)やEAEVE(欧州獣医学教育確立協会)といった第三者評価が実施されており、特にアメリカでは適格認定(アクレディテーション)を満たしていない大学の卒業生には、獣医師の受験資格が与えられないことになっています。また、2010年には、世界的な獣医師団体であるOIE(国際獣疫事務局)から獣医学教育に関するミニマム・コンピテンシー(案)※1が公表され、アジア各国においても獣医学系大学の国際的評価システムへの対応が迫られています。

国内においても、口蹄疫や鳥インフルエンザに代表される人獣共通感染症への対策、食の安全確保、輸入畜産物への対応、小動物を主体とする獣医療サービスの多様化・高度化、公務員や産業動物診療に従事する獣医師の人材不足など、さまざまな社会的ニーズが存在しています。

【 共同獣医学部におけるカリキュラムの流れ 】



山口大学と鹿児島大学をつなぐリアルタイム双方向型の遠隔講義システムを導入

しかし、日本の獣医学教育体制は十分に整備されているとは言えず、欧米の教育水準を目指して計画しているところです。

こうした国内外のさまざまな要望に応えるために、獣医学教育の改善が進められています。そこで、全国的な取り組みとして行われたのが「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」の作成です。

獣医学教育の改善を目指したモデル・コア・カリキュラム

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムは、わが国における獣医学教育の共通到達目標を定めたものです。これは、全国の大学における獣医学教育関係者が自主的・主体的に定めた教育項目で、大学卒業時までに修得すべき知識や技能などの教育内容が示されています。但し、モデル・コア・カリキュラムはあくまでコア(核)のため、獣医学専門教育課程6年間で身に付けるべき2/3程度の内容が示され、残りは各大学がそれぞれの理念に基づいて独自のカリキュラムを組むことになっています。

以前の獣医学の講義科目は、国家試験ガイドラインに沿った18科目を基本としていましたが、本カリキュラムは、近年の獣医学の進歩や国際的な通用性の観点、社会的ニーズを考慮して、基礎・応用・臨床を網羅した講義51科目、実習19科目に細分化されています。これを軸にした専門教育が、平成24年度から一部の大学で導入され、平成25年度からは16大学でスタートしています。

また、このカリキュラムの到達目標に準拠した共用試験※2を行うことで、実際に動物に接する参加型臨床実習に臨む学生たちのレベル判定を行うことができます。全国16大学が共通の試験を行い、臨床実習生の知識や技能などのレベルを一定水準以上に保つことが可能になります。

強みを持ち寄った獣医学教育で国際水準の獣医学教育を実践

発足から2年目を迎えた本学部においても、モデル・コア・カリキュラムに対応した新カリキュラムがスタートしており、両大学の学生は同じ教育科目を同じシラバスと時間割に従って受講しています。また、SINET4※3を利用した遠隔授業システムを導入し、リアルタイムかつ双方向な学びの場を提供しています。

さらに、全体の教員数が増えたことによって、より専門化された獣医学教育を行うことができるようになりました。山口大学は伴侶動物の獣医療や感染症対策、鹿児島大学は産業動物獣医療といったそれぞれの得意分野を連携・補完しながら、国際レベルの教育・研究を実践していきます。

実習環境の高度化も進められています。昨年設置したP2レベルの感染症実習室のほか、P3レベルの感染症実習室、参加型実習設備(リニアック)や健体病体解剖実習施設も計画中です。さらに、平成26年には、獣医学国際教育研究センター棟が新たに設置される予定です。

国際的・社会的に活躍する獣医師の養成を目指して

獣医師というと「動物のお医者さん」を連想される方が多いと思いますが、先ほどもお話した通り、実際にはさまざまな分野で活動しています。犬・猫などの伴侶動物をはじめ、牛や馬などの産業動物、野生動物を専門とする獣医師、家畜の診療や管理を行う農林水産分野の公務員、人獣共通感染症の予防や食肉などの衛生管理を行う公衆衛生分野の公務員、空港などの検疫官、バイオメディカル分野で医学の発展に貢献する獣医師、大学などで研究教育に携わる研究者など、実に多岐にわたっています。こうした多様な職域の中で、動物や人の生命・健康に密接にかかわる役割を担っています。

共同獣医学部の基本理念は、「生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創成に貢献する」ことです。OIEが提唱した「One-World One-Health」の考えに基づいた国際的な視野を持ち、人類と動物が共存して生きる社会に貢献できる世界レベルの獣医師を養成するために、国際的なアクレディテーションの取得も視野に入れています。現在、北海道大学・帯広大学共同教育課程と連携して欧米認証を目指しています。また、実験動物の管理と使用に関するAAALAC(エーラック)認証※4取得に向けても準備を進めているところです。

まだまだ検証すべき点も多々ありますが、地域においても世界においても通用する国際水準の獣医学教育・研究を目指して、さらなる充実を図っていきたいと考えています。

※1…獣医学教育の国際基準として、獣医学卒業生に期待される資質能力を示したもの。
※2…臨床実習開始前の全国共通の標準評価試験で平成28年から実施を予定。
※3…国立情報学研究所が提供・運用を行う学術情報情報ネットワークのこと
※4…AAALACインターナショナル(国際実験動物管理認定協会)による、実験動物の管理と使用に対する国際認証。

山口大学共同獣医学部の詳細はここでCHECK! >> http://www.vet.yamaguchi-u.ac.jp/index.html

地域貢献への取組み

地域に開かれた大学としての取組み 4

山口大学創基200周年記念 第1回山口大学ホームカミングデー開催

山口大学では、大学の有する人的・物的資源を活用して、地域社会との連携を推進し、地域活性化、ボランティア等、さまざまな活動に取り組んでいます。

《学長挨拶》
丸本卓哉学長

《記念講演会》
妹尾信夫氏

《在学生による「お・も・て・な・し」》
落語研究会

《記念講演会》
阿部玲子氏

《子ども向けのイベント》
マジックショー

1st Home Coming Day

平成25年11月23日(土)、吉田キャンパスにおいて、第1回山口大学ホームカミングデーが開催され、一般参加者を含む400名を超える方々が参加されました。平成27年の山口大学創基200周年に向け、教職員、在学生および卒業生の方々が一体となって絆を深め、本学の発展に貢献する、その第1歩として企画されたものです。

本学の卒業生である妹尾信夫氏、阿部玲子氏による記念講演、ヤマミィショー、学生サークルによるイベント、キャンパスツアーなど、卒業生だけでなく、家族や地域の方々も参加できる様々な企画が催されました。【取材協力YU-PRSS】

第1回山口大学ホームカミングデーについての詳細はここでCHECK! >> http://www.yamaguchi200.jp/index/page/id/337

>> 卒業生紹介冊子「輝跡 –未来へ、ここから–」第1号発行

平成25年11月、山口大学創基200周年記念の一環として、卒業生紹介冊子「輝跡」が発行されました。この冊子の発行に当たっては、企画からインタビュー、編集にいたるまで、本学の学生が携わっています。在学生が将来を考えるときの参考となるようにと、社会で活躍されている卒業生の山口大学に対する思いや学生への期待などがまとめられています。

「輝跡」は、大学教育機構就職支援室および各学部学生担当窓口で入手可能です。一般の方は、山口大学総務部総務課へご連絡ください。

発行に携わった花木待子さん(左)と高橋由紀さん(右)

総務部総務課 〒753-8511 山口市吉田1677−1 Tel: 083−933−5010

ーキミのやる気を応援！ー

おもしろプロジェクト

山大オリジナルの学生の自主的活動への資金支援制度、「おもしろプロジェクト」も今年で18年目。これまでに採択されたものから現在進行中のプロジェクト、その他の活動内容をご紹介します。

カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト

「カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト」のメンバーが、11月23日～11月30日にカンボジアを訪問し、現地の小・中・高等学校で運動会を開催しました。団長の入江航生さん（教育学部４年）にお話を伺いました。

カンボジアでの運動会の様子

Question 1 カンボジアで運動会をしようと思ったきっかけは？

カンボジアを視察された所属する教育学部の先生に声をかけていただいたことがきっかけです。カンボジアでは、2009年に学校での体育授業が必修となったのですが、依然、施設・設備がととのっておらず、体育に対する理解も浅いとのこと。現地に体育を根付かせるためには、まずは、体育のおもしろさをしってもらうのが良いのではないかと考え、運動会を開くことを思いつきました。

Question 2 特に気を配った点や、工夫したところはありますか？

事前練習を必要としないこと、運動会を見に来てくれている方々から笑いが漏れるような楽しい内容であること、道具にお金がかからないこと。これらの条件を満たすプログラムをみんなで考えました。日本からの支援がなくなった後も継続して運動会が開けるよう、日本からの備品の持ち込みは極力せず、現地調達にこだわりました。

Question 3 どのような成果があがりましたか？

おもしろプロジェクトとしては今回が初めてですが、昨年（2013年）の1月にも教育学部の有志の学生を中心としたグループで運動会をしているので、実質的には今回が2回目になります。最初に行ったときと今回では、カンボジアの関係者の方々の運動会への取り組み方が変わってきたことは、大きな成果だと思います。

例えば、1回目の運動会で日本のラジオ体操を紹介したのですが、その後自発的に練習をし、今回の運動会で披露してくれました。運動会の準備が体育授業の実施の端緒になるのではないかと期待ができます。また、前回、来賓として招待した現地の行政機関の方々が、今回の運動会の企画・運営に当たって様々な協力をしてくださいました。行政を巻き込めたことの意味は大きいと思います。

Question 4 今後の展望は？

1回だけでは、ただのお祭です。運動会や体育の授業をカンボジアに定着させるためには、今後も継続していくことが重要です。また、このプロジェクトは参加する学生が成長することも目的の一つです。

個人的な話ですが、今回のプロジェクトに携わったことで、日本では当たり前に行われている授業を当たり前にできる日本の体育の先生の「凄さ」に、改めて気づくことができました。これまで漫然と学生生活を送ってきていましたが、体育指導のための研鑽を積んでいくとともに、今後も、何らかの形で開発途上国の支援やボランティア活動に携わっていきたいと思うようになりました。

より多くの学生にこのプロジェクトに参加してもらい、こういった体験をしてもらいたいと思います。

おもしろプロジェクトの詳細はここでCHECK! >> http://ssct.oue.yamaguchi-u.ac.jp/omoprohp/index.html

What's New? YU-PRSS

《 学生スタッフYU-PRSSがお届けする、山大の最新情報 》

YU-PRSSとは？
ユープラス

広報誌「YU-INFORMATION」や、山大のWEBサイト内の「キャンパスライフ」ページなどの制作に携わる、山口大学広報学生スタッフです。

YU-PRSS（“Yamaguchi University Public Relations Student Staff”の略）は、「山大生のあなた（YOU）にも、そうでないあなた（YOU）にもプラスになる情報を届けたい」との想いを込めてつけられました。現在20名のメンバーで広報活動を行っています。

YU-PRSSメンバー

入江 貴博	中冨 真奈	小形 智樹
長岡 奈緒子	城村 ひとみ	中山 拳太朗
前田 梨乃	長岡 真大	原田 海沙
吉岡 優一	倉増 沙和	浅沼　萌
河島 あかね	田里 翔太	横山　侑里
溝口 明音	原殿 花織	近藤　守
石井 沙希	武田 一志	

感想、取材依頼など、YU-PRSSにお気軽にメールしてください！

今月号についての感想や、今後こういった特集はどうだろうといったアイデア、こんな人を取材してほしいといったご要望も受け付けています。また、「私たちを取材してほしい」といったサークルやグループも大歓迎です。たくさんのメールをお待ちしています。

E-MAIL： campus@yamaguchi-u.ac.jp

「キャンパスライフ」はコチラをCHECK! >>
http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/

01 管弦楽団／邦楽部、定期演奏会開催

2013年12月14日（土）、山口市民会館で山口大学管弦楽団による定期演奏会が行われました。荘陽な「ウィリアムテル序曲」や軽妙に舞うような「くるみ割り人形」といったクラシック音楽でありながら誰もが聞いたことのある曲を華麗に演奏しました。また、同日、ニューメディアプラザ山口では山口大学邦楽部による定期演奏会が開催されました。邦楽部は伝統ある日本の美をまとった音色を奏で、聴衆はその優美な音に魅了されました。

02 日本経済新聞社発行の「親と子のかしこい大学選び2014」（就業力が育つ大学ランキング）における“就業観編”で山口大学が1位を獲得しました。

上記冊子では「学生生活充実度調査」を実施。「学業」、「課外活動」、「交友関係」、「就業観」の4項目について、各大学の取り組み状況等に関する質問を学生に対して行い、その結果を大学ごとにまとめた上でランキング化が行われています。『大学での学業や経験は仕事に役立つと思うか』、『大学の就職支援は役立っているか』、『大学でのキャリアに関する科目は就職活動に役立っているか』、『インターンシップの経験はあるか』の5項目について質問。これらの質問による結果は大学のキャリア支援策や面倒見の良さが評価に直結していると言えます。

03

東アジア研究科 D2 趙暁燕さんが、全国大学国語国文学会第108回大会において研究発表奨励賞を受賞しました。

04 理工学研究科 M2 中村一平さん、医学系研究科 M1 富永亮さん、医学系研究科 M1 守友博紀さんの3名が『平成25年度化学系学協会東北支部及び日本化学会東北支部70周年記念国際会議』において、優秀ポスター賞を受賞しました。

05 科学技術振興機構（JST）主催『全国イノベーションコーディネータフォーラム2013』イノベーションコーディネータ表彰式において、大学研究推進機構産学公連携センターの浜本俊一コーディネータが“功労者賞”を受賞しました。

YU-INFORMATION
ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌　Vol.117

山口大学総務部広報課
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
TEL：083-933-5007 FAX：083-933-5013
E-MAIL：sh011@yamaguchi-u.ac.jp
URL:http://www.yamaguchi-u.ac.jp/

今月の NEWS & TOPICS

06

理工学研究科M1 阿部光さんが7th Asian Conference on Electrochemical Power Sourcesで、2nd Prize Poster Presentation Awardを受賞しました。

07

理工学研究科 M2 寶川兼人さんが、日本航空宇宙学会西部支部講演会2013にて、優秀学生講演賞を受賞しました。

08

理工学研究科 D2 永井翔太郎さんがソウルで開催されたAsia-Pacific Microwave Conference 2013で、Asia-Pacific Microwave Conference 2013 Best Student Paper Awardを受賞しました。

09

技術経営研究科の春山繁之准教授，上西研教授，大﨑修平氏、理工学研究科の古賀毅准教授が、平成25年度軽金属論文賞を受賞しました。

10

村田秀一 理事・副学長が、中国地方の文化・学術・地域貢献などの分野で優れた功績を挙げた人物を称えるための賞である「中国文化賞（第70回）」を受賞しました。

11

理工学研究科環境共生系専攻資源環境システム学分野の新苗正和教授と鈴木祐麻助教らの研究グループが、中国の湖南張家界で開催されたEARTH2013 (12th International Symposium on East Asia Resources Recycling Technology) にて、「Best Paper Award」を受賞しました。

EVENTSCHEDULE ［イベントスケジュール］

2 FEBRUARY

10（月） 推薦入試Ⅱ合格発表

25（火）～26（水） 一般入試（前期日程）／私費外国人留学生入試（経済・工学部を除く）

3 MARCH

7（金） 一般入試（前期日程）／私費外国人留学生入試（経済・工学部を除く）合格発表

12（水）～13（木） 一般入試（後期日程）

17（月） 大学院学位記授与式
場所：山口大学 大学会館

20（木） 大学卒業式／大学院修了式
場所：山口県スポーツ文化センター

21（金） 一般入試（後期日程）合格発表

Next Issue

次号予告

新入生へ

4月から共に歩み始める山口大学を、
「新入生へ」、「教育カリキュラム」の二つの特集で、
その目指す方向を伝えます。
お楽しみに。

編集発行/山口大学広報委員会
村田秀一（理事・副学長 総務企画担当）／坪郷英彦（人文学部）／菊屋吉生（教育学部）／平中貫一（経済学部）／川村喜一郎（理学部）／大和田祐二（医学部）／山本節夫（工学部）／竹松葉子（農学部）／度会雅久（共同獣医学部）／向山尚志（技術経営研究科）／何暁毅（大学教育機構）／平井信義（大学研究推進機構）／小河原加久治（大学情報機構）／片山信一（総務部広報課）

企画・編集・撮影・デザイン／株式会社 無限

「志」つなぎ 伝える
二百年

創基200周年
山口大学

2015年に山口大学は創基200周年を迎えます

山口大学は，長州藩士・上田鳳陽により創設された「山口講堂」をルーツとし、明治・大正期の学制を経て、1949年に地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。来る2015年（平成27年）には創基200周年を迎えます。山口大学は，地域に根ざした大学として、さらなる充実と飛躍を期し、次なる100年をより有意義なものにするための記念事業を計画しています。

2014年度　創基200周年NEWS

山口大学では、200年の歴史を多くの皆様に伝えるための講演会，シンポジウム、また、地域のニーズに合わせた様々な行事，学生の企画によるイベント等の各種記念事業などを実施します。ここでは、それら創基200周年に関連した最新ニュースを紹介していきます。

山口大学
キャラクター
「ヤマミィ」

創基200周年記念 第3回基幹シンポジウム開催

平成25年11月30日（土）、山口大学常盤キャンパスにおいて、創基200周年第3回基幹シンポジウムが開催されました。
今回のシンポジウムのテーマは、「山口大学創基200周年を広く地域に発信し、ともに盛り上げていく」で、学外からも多くの方々に参加していただき、時代の「節目」について考えることとしました。
特別講演では、建築家の隈研吾氏による「場所の力」と題して、東日本大震災において災害から難を逃れた昔からの集落、建物を例に、「東日本大震災で、その場所の歴史や地形の特性を無視し、現代の経済成長を前提とした都市づくりは脆弱であるという自然からのメッセージを受け取った。これからは、場所がもつ力、意味について考える時代である。」と力説されました。

Back to the Past　バック・トゥ・ザ・パスト

山口大学の過去と現在の姿を比較しながら、200年の歴史を振り返ります。

第5回

［昭和41年］
吉田キャンパス 農場跡

昭和41年頃、建築中の農学部から見た景色です。写真中央には平清水八幡宮の石の鳥居があります。その右側に見える長屋は農学部教員官舎で、牛が放牧されていました。山口大学を囲む道路もはっきりとは分かりません。現在そこには国際交流会館が建っています。奥に見える山の稜線はそのままですが、麓には高速道路が走っています。大学移転以降、山口市でも有数の人口増加地区で、宅地が広がり、当時の面影は分からなくなっています。

創基200周年の詳細はここでCHECK! >> http://www.yamaguchi200.jp/